

会報

No. 96

平成29(2017)年3月15日

http://www.library.pref.kyoto.jp/?

page_id=28

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町

京都府立図書館内

TEL (075) 762-4655

<目次>

1面

- ・学校図書館と協働するために
～自立を支援する～
(京都市図書館)

2～3面

- ・実務研修会実施報告
- ・中部研修参加報告

4面

- ・京都学・歴彩館が
一部オープンしました
(京都府立京都学・歴彩館)
- ・京都府図書館等連絡協議会事業

学校図書館と協働するために

～自立を支援する～

京都市図書館 尾上 奈緒

○学校図書館の課題

三年前まで、京都市図書館と学校図書館との連携といえば、学校図書館の不足資料を公共図書館の資料で補う学校団体貸出や、職員が授業に出向きブックトークを実施するなどの支援事業が中心だったが、学習指導要領の改訂により、学校ではこれまで以上に学校図書館を計画的に活用する授業が求められるようになった。

平成二十六年三月に、京都市は「第3次京都市子ども読書活動推進計画」を策定したが、これに先駆け学校では「学校図書館大改造」と称し書架のレイアウト変更や配架の見直しなど、利用しやすい図書館を目指して環境整備が実施され、平成二十六年度には、二百校以上あるほとんどの小中総合支援学校で整備を終え(平成二十七年度に全校整備完了)、教育委員会では学校図書館改革の機運が高まっていた。

市図書館はこの機をとらえ、整備を終えた学校図書館が抱える今後の課題について話し合いの場を持った。学校図書館現場での課題は主に二点あり、一点目は「学校図書館標準蔵書割合」に

照らして、文学以外の調べ学習用資料が圧倒的に不足していること、二点目はその資料を子どもに渡す職員の問題だ。

市図書館では十年前から学校への団体貸出を実施しているが、貸出の際には、役立った資料の積極的購入を呼びかけている。それなりの利用があったものの、十年経っても蔵書に変化がない理由の一つには司書教諭をはじめ教員の多忙があり、公共図書館から借った資料の検証は困難な状況だった。

○信頼できるリストが欲しい

授業に必要な資料は、可能な限り学校図書館での所蔵が望まれる。学校図書館が蔵書を充実させるための「信頼できるリスト」の必要を感じた。信頼性を重視した場合、子どもの調べ学習に直接関わる現場教員の意見は必須だ。そこで、まずは学校団体貸出の利用が多い小学校に照準を合わせ、この趣旨を理解し協力を得られるモデル校を選んだ。モデル校からは授業のテーマと必要な資料をできるだけ具体的に示してもらい、市図書館はそれを参考に資料を選定し学校に配送、活用した教員全員が評価を行い、それを基に市図書館で単元やテーマを明確にした「調べ学習のための推薦図書」リストを作成

した。入手困難な資料でも教員の評価が高かったものはリストに加え、除籍の際の参考にするなど、様々な活用を可能にした。このリストは、教育委員会の「京都市教育ネットワークインストラネット」を通して全教員が共有できる。

○学校司書のステップアップのために

資料の充実とともに重要なのが、司書教諭をサポートする学校司書の育成だ。京都市には現在百二十一名の学校司書が配置されているが、その力量には個人差があり、全体のスキルアップが望まれた。これまで、市図書館の司書に依頼していた生徒への読み聞かせ指導や授業でのブックトークなどを学校司書に取り組ませたいとの教育委員会の意向を受け、市図書館では、少人数制ワークショップ型の研修を、昨年から計十六回実施。研修を受けた学校司書がそれを授業で活用した割合は、昨年度で四割を超えている。

○自立支援の先には

本来、公共図書館と学校図書館ではよりどころとする法律も異なり、共通部分はあるものの担う役割は違う。「子どもが本と出会う新たな取組」のためにも、今後ますます、互いが自立し協働する関係が望まれる。

実務研修会実施報告

◎北部会場

「コレクシヨンづくりの考え方と実際」
 日程 平成二十八年十一月十八日
 (金)

場所 みやつ歴史の館
 講師 嶋田 学氏

概要 図書館資料により構成するコレクシヨンの役割と機能、資料選択の考え方について、講演と演習により考察。

(瀬戸内市民図書館長)

◎中部会場

「レファレンスPOPの作成・レファレンスブックを利用に繋げるためのワンステップ」
 日程 平成二十八年十二月二日(金)

場所 京都府立図書館
 講師 桂 まに子氏

(京都女子大学講師)

◎南部会場

「児童サービス まずはこちらからよく考えてみよう サービスの本質」
 日程 平成二十八年十二月七日(水)

場所 文化・パルク城陽
 講師 出口 宏子氏

(前八幡市立八幡市民図書館長)

概要

「図書館は人が一生涯にわたって通うことが出来る唯一の施設であり、子どもには生きる力を養う貴重な場となる」との講演を通して、児童サービスの本質を考察。

中部研修参加報告

京都府立図書館 望月 佑梨絵

平成二十八年十二月二日に中部ブロック実務研修会が京都府立図書館にて開催されました。

今回は「レファレンスPOP」をテーマとし、京都女子大学講師の桂まに子氏による講演とワークショップが行われました。

「レファレンスPOP」とは、レファレンスブックの特徴を小型のカードで紹介したもので、平成二十二年度に桂氏が考案された新しいレファレンスツールです。

前半は「レファレンスPOP」を考案されるまでの経緯や作成時のポイントなどについて御講演をいただきました。レファレンスブック等のツールがあっても情報発信が不十分なために利用者が活用できていないという課題があり、情報発信やレファレンスコレクシヨンの

の可視化などの観点から考案されたことでした。京都女子大学司書課程では発信型情報サービスの演習としてPOPの作成に取り組んでおり、まずレファレンスブックの評価を行い、書誌情報や概要・特色等評価シートにまとめた上で作成にあたってのものとことです。また、大学図書館から使用されなくなった目録カードを譲り受けたことから、再利用もかねて平成二十三年度後期からは目録カードを用いて作成しているそうです。

公共図書館が「レファレンスPOP」を作成する意義についてのお話の中では、レファレンスブックの認知度を上げることに他に、POP作成時にクリエイティブ・コモンズ・ライセンスを付与することによって、他館で作成されたPOPを自由に利用することを可能とし、図書館間での新たな連携協力を実現させることができるという御提案もありました。

POPを作成する際のポイントとして、書誌情報載せることをまず基本に、利用者がレファレンスブックを手に取りたくなるようなキャッチフレーズを載せることでレファレンスブックへの興味・関心を高めることが挙げられる、とのことでした。また、実際に学生が作成したPOPとそれに対する評

価コメントを多数紹介いただき、必ずしもイラストにこだわる必要はなく、見やすさ、わかりやすさが重要であると説明されました。



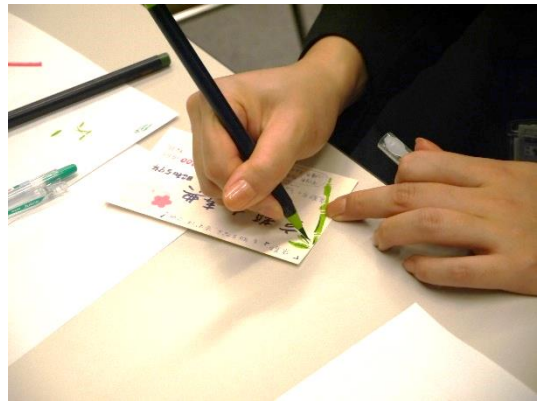
前半の講演会の様子

後半は前半の講演をもとに、実際にPOPを作成しました。各自で持参した筆記用具以外にも、桂氏に学生たちとPOPを作成する際に使用しているペンやマスキングテープなどを用意していただき、それらを活用して一時間程度で作成しました。作成後はグループに分かれ、講評を行いました。

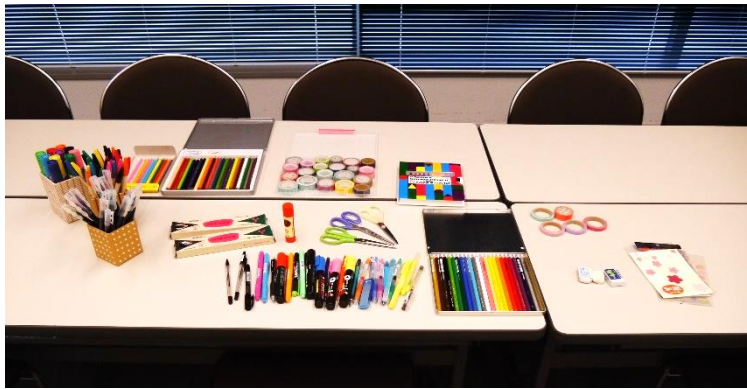
(3)

講評では各自資料の紹介とどのような点を工夫したかなどを発表し、それを踏まえて、作品から伝わってくることや、改善点などの意見交換を行いました。どの作品も個性があり、大変盛り上がりました。

最後の質疑応答では、授業で学生がPOPの作成にかける時間について、またPOPの大きさについて質問がありました。桂氏からは、授業の中では三十分程度で作成していること、また大きさについては現在使用している目録カードの大きさ（八×十三センチ程度）がちょうどいいと感じているが、決まりがあるわけではなく、今後作る際には様々な大きさに作成してみてもいいのではないかというお答えがありました。

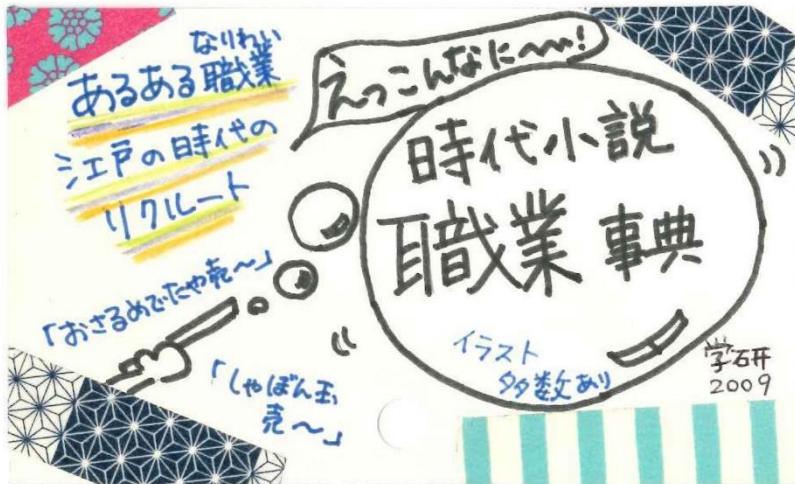


「レファレンスPOP」作成の様子



「レファレンスPOP」作成に使用した画材

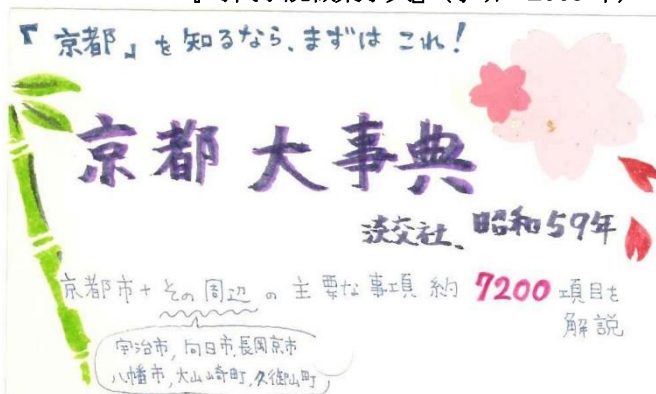
視覚的なインパクトがあり、レファレンスブックと利用者とを繋ぐきっかけになることが期待できる「レファレンスPOP」ですが、公共図書館ではまだ活用事例がなく、今回の研修によって公共図書館へも広まることを期待されます。



『時代小説職業事典』（学研 2009年）

完成した作品は、実務研修会のページ
http://www.library.pref.kyoto.jp/?page_id=8553 → 「研修の様子」 → 「完成したレファレンスPOP」もご覧になります。

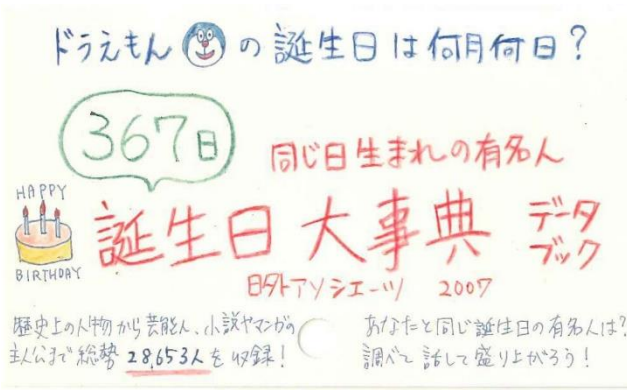
当日作成のレファレンスPOP
 (一部)を「紹介」します。



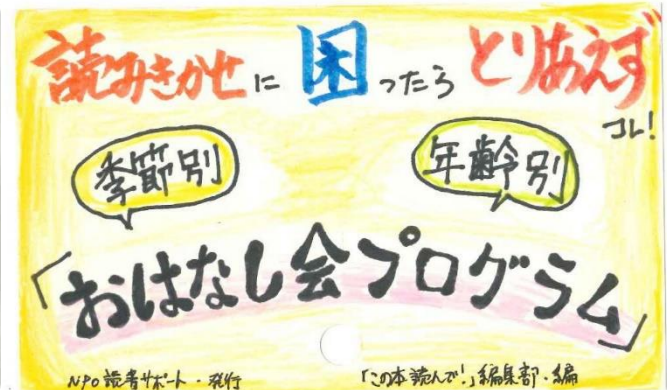
『京都大事典』（淡交社 1984年）



『京都府の地名』（平凡社 1981年）



『367日誕生日大事典』(日外アソシエーツ 2007年)



『おはなし会プログラム』(読書サポート 2008年)

京都学・歴史館が
一部オープンしました
京都府立京都学・歴史館

京都に関する資料の総合的な収集、保存、公開を五十年以上にわたり担ってきた府立総合資料館が、新たに、京都の歴史・文化に関する研究支援や学習・交流の機能を加え、京都北山の新たな文化・学習交流拠点「京都府立京都学・歴史館」として生まれ変わり、平成二十八年十二月二十三日に一部オープンしました。

「京都府立京都学・歴史館」は、府立総合資料館の歴史を受け継ぐ新たな文化創造・発信拠点として誕生し、その名前には、「日本文化のふるさと」京都で育まれた文化を幅広いアプローチにより研究する京都学を推進する拠点となり、さらには、様々な方が学び・交流することを通じて、長い歴史の中で鮮やかに彩られてきた文化が、時代を越えて輝き続けるよう将来に伝えていきたいという思いを込めています。

新しい機能として、京都府内外の大学・研究機関と連携を図りつつ、京都の様々な文化資源の研究プロジェクトを展開し、それを広く発信していきます。さらに、その一環として陽明文庫をはじめ京都に存在する膨大な歴史・文化の貴重な資料を館内で閲覧できる事業

を進めるほか、国際的な視野で幅広い研究交流のネットワークを築き、若い研究者を招聘し、京都でその研究を深化するための支援をしていきます。その研究の推進と様々な交流により、京都の奥深い文化が改めて見直されることや、世界への京都文化の発信が進むことを目指すものです。

現在は一階の交流フロアの一部を開館しています。一階には、京都の文化に関する様々なセミナーや研究報告会、講演会やシンポジウム等多彩なプログラムの会場となる四百八十四席の大ホールや百席の小ホールなどのほか、京都府が所蔵する文書資料や美術工芸品を展示公開する展示室、自主研究や学習に利用できる学習室(整備中)、京都の歴史や文化等を学び、研究する方の交流スペースとなる京都学ラウンジ等が配置されています。

二階は、これまで府立総合資料館が収集・所蔵してきた京都に関する図書資料、古文書、行政文書、写真資料など約七十四万冊(点)に加え、府立大学・府立医科大学附属図書館の所蔵図書約二十万冊・学術雑誌約二千種を、どなたでもご覧いただくことができる閲覧フロアとして整備し、平成二十九年春のグランドオープンを目指しています。京都の文化の普遍的価値を探る京都学研究の推進拠点として、また、人々が集い、楽しく学び交流する中から新た

な文化価値を創造する施設として、これまで以上に多くの皆さまにご利用いただけるよう、機能拡充の運営に努めてまいります。

平成二十八年年度後期
京都府図書館等連絡協議会事業

【後期の開催実績】

- 平成二十八年十一月六日(日)
第五回子ども読書本のしおりコンテスト表彰式(府教委との共催事業)
(御所西京都平安ホテル)
- 平成二十八年十一月十八日(金)
実務研修会(北部/みやづ歴史の館)
- 平成二十八年十二月二日(金)
実務研修会(中部/府立図書館)
- 平成二十八年十二月七日(水)
実務研修会(南部/文化パルク城陽)
- 平成二十九年三月一日(水)
相互協力実務担当者会議
(府立図書館)

【今後の予定】

- 平成二十九年三月中旬(予定)
第二回理事会
(亀岡市立図書館中央館)

II 会報をホームページに掲載 II

第九十六号を、京都府図書館等連絡協議会のホームページ(URLは一面参照)に全文掲載しています。御利用ください。

